

受賞者のご挨拶

アキモク鉄工 株式会社

代表取締役 花 下 智 之 様



この度は栄えある「中小企業振興表彰」を賜り、誠にありがとうございます。昨今の激しい経済環境の変化の中、企業存続に向けてチャレンジ精神を忘れず、不断の努力の活動を評価して頂きましたことに従業員一同を代表して心より感謝申し上げます。この度の受賞のご挨拶に際して、新規事業展開の経緯をご説明させて頂けますことは、私どもを再確認する機会にもなりました。重ねてのお礼を申し上げます。

弊社は昭和55年10月に設立し、橋梁・水門など鋼構造製品の鉄構工場と産業機械製品の機械工場を併設した2部門体制を維持して参りました。そのルーツは明治40年に設立された「秋田木材株式会社」であります。米代川流域の秋田杉製材品を国の内外に提供し、地域を代表する企業として「アキモク」の名で親しまれておりました。

顧客の需要増への対応策として海外から電動の製材機械を導入する際には、「必要な電力は自らの努力で調達する」こととして発電事業を展開し、地域電化の基礎となりました。更に、生産能力向上の為に製材機械を自社開発し、昭和13年に製材機械メーカーとして（株）秋木機械製作所が設立されました。その後、様々な事業展開を整理し、製材以外の産業機械や橋梁・水門の新規事業部門として現在の能代松陽高校の地に発足したのが私どものアキモク鉄工（株）であります。その後、昭和59年に現在地に移設

して現在に至ります。

以来、多様な困難を経験しながらの事業継続でしたが、経済社会のグローバル展開が急拡大した平成20年代は従来顧客からの受注減少という脅威に晒され続け、更には人口減少、若者の地域離れ、後継者不在による協力会社の廃業などの社会現象も目立ち始め、企業継続の危機に対する抜本的な打開策が急務となりました。まずは自己の問題として足元を再確認することに着目しました。幸いにも明治の創業時代からの企業史が残されており、そこから諸先輩が時代の荒波を乗り越えたイノベーションの歴史を読み取ることができ、背中を押される思いに胸が熱くなったことを覚えております。

特に先に述べた電力事業展開の他、太平洋戦争時代には秋木機械製作所が海軍の軍需工場に指定され、専用工場で『ゼロ戦』や『銀河』の引込式ランディング・ギアを中島飛行機（現：SUBARU）に提供していたことは、80歳後半の地域の皆様からお話を伺えます。

関連して昭和37年にはJAXA能代ロケット実験場の設置があり、昭和50年から能代市長を3期務められた西村節朗氏におかれましては戦中の中島飛行機にて、ロケットの父と言われる糸川英夫博士と共に戦闘機の設計に携わっていたこと等々、当地能代に流れる航空宇宙産業の遺伝子を感じたことに加えて、秋田県産業技術センターと県内企業5社によって先に設立さ

れていた「秋田輸送機コンソーシアム」が秋田県の重点政策による企業連携拡大の情報を得た際には早速参画させて頂きました。

その後、航空機産業育成の様々な講習会に参加しながら、自社の強みを発揮する分野を模索する中、航空機産業推進コーディネータから国内特許取得技術の製品化パートナーを探していた地元企業のレフラン株式会社のご紹介を受け、共同制作に合意致しました。しかし、開発に成功した塩分洗浄装置を海上保安庁に提供する直前の平成23年3月11日に発生した東日本大震災で顧客が被災したことにより、1年遅れで納品が実現しました。その後、秋田県の“ものづくり中核企業創出促進事業”の採択を受け、市場調査により顧客要望を取り入れた改良型機をレフランとの協議や秋田大学との共同研究により開発し、販売戦略としては海外の航空機産業にて実績を作り、それを基に国内に営業展開を進めることとしました。

平成25年6月にジェトロ秋田のご支援によって“輸出有望案件支援企業”に採択され、専門家による海外営業展開に臨み『パリエアショー2013』にて出会ったマレーシアの航空機産業関連企業との連携を確立し、オイル掘削事業向けの運送企業が所有するヘリコプターの塩害課題解決に向けた評価試験により高評価を頂き、販売契約の準備に入った直後に突然のオイル価格暴落となり、契約中断の事態となりました。

しかし、そこであきらめず、その評価試験実績を活用した動画などによるアピールを計画し、次のステップである国内展開へと駒を進め、平成28年10月の『東京国際航空宇宙展 J A 2 0 1 6』に秋田輸送機コンソーシアムが中心となった拡大組織の“T A I F：東北航空宇宙産業

研究会”のパビリオンに共同出展を行いました。そこで塩分洗浄装置という特殊機器に注目が集まり、塩害防止の必要性が確認できました。展示会終了後には防衛省からお電話を頂き、仕様確認の訪問説明の後に公開入札にて落札し、平成29年3月に導入して頂きました。

現在、主に南方の水陸機動団が運用する米国製水陸両用車 A A V 7 の塩分洗浄用途として活用されております。その後も多様な顧客要望を受けたことから新規開発事業を計画し、昨年度の“秋田県ものづくり中核企業成長戦略推進事業”に採択され、秋田大学、秋田県産業技術センター、秋田銀行・地域振興室及び能代支店の幅広くかつ奥深いご指導を頂きながらそのご期待に沿うべく開発を継続して参ります。

ものづくり企業の喫緊の課題である採用難における地元離れの原因の一つに、地域企業の認知度の低下が指摘されており、地域の未来を引き継ぐ若い人たちには地元企業のグローバルな開発の醍醐味に触れる機会があればと願って参りました。この度の受賞は、将来に向けての明るい話題と認識してもらい機会となり、同時に全社員の大きな励みにもなります。

《社は：天命に安んじて人事を尽くす》を念頭に、地域企業としての使命を果たすべく全社一丸で精進して参ります。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。この度は誠にありがとうございました。

(会社概要)

事業内容	産業機械及び鋼構造物製品製造
設 立	昭和55年10月
資 本 金	3,000万円
従業員数	38名
売 上 高	6億3,000万円(平成31年3月期)